

ナサニエル・ホーソーン研究
Working Checklist: 2009-2010

川村 幸夫（東京理科大学）
大野 美砂（東京海洋大学）
奈良裕美子（諏訪東京理科大学）

I. Books

入子文子・林以知郎（編著）『独立の時代——アメリカ古典文学は語る——』世界思想社(2009)
下河辺美知子（編著）『アメリカン・テロル——内なる敵と恐怖の連鎖——』彩流社(2009)
田中久男（監修）・早瀬博範（編著）『アメリカ文学における階級』英宝社(2009)
橋本賢二『アメリカ短篇小説の構造』大阪教育図書(2009)
矢作三蔵（訳著）『ラパチーニの娘 ホーソーン』開文社(2009)

II. Bibliographies

III. Translations

市川美香子・水野尚之・舟阪洋子（訳）ヘンリー・ジェイムズ著『ある青年の覚え書・道半ば——ヘンリー・ジェイムズ自伝 第二巻、第三巻』大阪教育図書(2009)
八木敏雄（編訳）エドガー・アラン・ポオ著『ポオ評論集』岩波書店(2009)

IV. Articles

井坂義雄「西暦 1838 年のスケッチ——ホーソーン「年の瀬の対話」“The Sister Years”——」
『PHOEBUS』9 法政英語英米文学研究会(2008)pp. 3-14.
入子文子「「ある鐘の伝記」を読む——ホーソーンにおける歴史と詩学の交錯——」『独立の時代』pp. 111-48.
内堀奈保子「ホーソーンとメルヴィル——『大理石の牧神』と『クラレル』における巡礼をめぐって——」
『フォーラム』15 日本ナサニエル・ホーソーン協会(2010)pp.1-18.
大塚寿郎「ホーソーンの歴史物語における文化的象徴としてのピューリタンと民主主義」
『英文学と英語学』46 上智学英文学科(2009) pp. 43-55.
大場厚志「チャップリン『モダン・タイムス』の冒頭 18 分を「読む」」『東海学園大学研究紀要』13
東海学園大学（2008）pp. 35-44.
尾崎裕子「ナサニエル・ホーソーンの『緋文字』における語り手」『立命館英米文学』19
立命館英米文学会(2010) pp. 38-54.
古平ユキ「人間の本性——“Young Goodman Brown”におけるピューリタン社会への警鐘」
『鶴見英語英米文学研究』10 鶴見大学(2009) pp. 1-17.
斉藤昇「北米毛皮交易の原風景——アーヴィングの『アストリア』の意義をめぐって——」

『独立の時代』 pp. 83-109.

佐々木英哲「黄昏の Melville に忍び寄る Hawthorne の影：辞世の書 *Billy Budd*——クィア・リーディングの試み」『国際文化論集』39 桃山学院大学国際文化学会、桃山学院大学総合研究所(2009) pp. 57-84.

島田太郎「メルヴィルの前半生と政治——ホーソンと対比しながら」『学苑』833

昭和女子大学近代文化研究所、昭和女子大学光葉会(2010) pp. 88-93.

白川恵子「売れる偉勲、憂うる遺訓——ウィームズの『ワシントン伝』再考——」『独立の時代』 pp. 29-58.

鈴木 繁「「原罪」を探す子供たち——交差するナサニエル・ホーソンと中井英夫(1)」

『佐賀大学文化教育学部研究論文集』13(2)佐賀大学文化教育学部(2009) pp.121-35.

巽孝之「建国の父たち——ワシントン、アダムズ、モンロー——」『独立の時代』 pp. 3-27.

福岡和子「「継承」と「革命」のはざまで——メルヴィル作『ピエール』を読む——」『独立の時代』 pp. 149-68.

藤吉清次郎「『七破風の屋敷』における「中産階級」の形成と人種問題」『アメリカ文学における階級』 pp. 111-27.

——「*The Scarlet Letter* と *Beloved*——「スレイヴ・ナラティヴ」の観点から——」

『高知大学学術研究報告』58 高知大学(2009) pp. 11-20.

古屋耕平「「頭を突き出した蛇のような疑念」——ホーソンの *Septimius Felton* における歴史のディレンマ」『アメリカ文学研究』46 日本アメリカ文学会 (2009) pp.17-32.

真木彰子「“Roger Malvin’s Burial”の二層構造」『鶴見英語英米文学研究』10 鶴見大学(2009) pp. 19-34.

増永俊一「ホーソンのポリティックス——権力転位と眼差しの行方」『エクス』6

関西学院大学経済学部(2009) pp. 23-28.

水野尚之「ジェイムズ家とアメリカ独立期」『独立の時代』 pp. 169-92.

宮澤文雄「断絶した過去——Nathaniel Hawthorne の“The Gentle Boy”再考」『東北』43

東北学院大学大学院文学研究科(2010) pp. 1-21.

吉井麻里子「緋色の中に見えるもの——『緋文字』の語り手についての一考察——」

『フォーラム』15 日本ナサニエル・ホーソン協会(2010)pp.19-36.

Fujimura, Nozomi. “A Text of Deep and Varied Meaning”: Nathaniel Hawthorne, “The Story Teller,” and the Making of the American Subject.” *Studies in English Literature* 51 日本英文学会(2010) pp. 41-60.

Hayashi, Yukitoshi. “Americans in Europe: the Case of *The Marble Faun*.” 『釧路工業高等専門学校紀要』43 釧路工業高等専門学校(2009) pp. 67-74.

Shoji, Hiroko. “Domestic Mesmerism: Hawthorne and the Emergence of the Middle Class in Antebellum America.”

『成蹊英語英文研究』13 成蹊大学文学部学会(2009) pp. 33-56.

Uematsu, Yoshiyuki. “Works from the White Mountain Regions (Part 2) Hawthorne’s Early Making of the American Scenes.”『香川大学教育学部研究報告・第I部』131 香川大学教育学部(2009) pp. 65-71.

V. Reviews

- 伊藤詔子『月下の自然―一夜の散歩と思索のエッセイ』（ヘンリー・ソロー著、小野和人訳）『ヘンリー・ソロー研究論集』35 日本ソロー学会(2009) pp. 89-92.
- 植芝 牧 *Melville Unfolding: Sexuality, Politics and the Version of Typee.* (John Bryant 著) 『フォーラム』15 日本ナサニエル・ホーソーン協会(2010)pp. 57-62.
- 大場厚志『独立の時代―アメリカ古典文学は語る―』（入子文子・林以知郎編著）『フォーラム』15 日本ナサニエル・ホーソーン協会(2010)pp. 43-49.
- 川村幸夫 *The Anatomy of National Fantasy: Hawthorne, Utopia, and Everyday Life.* (Lauren Berlant 著) 『フォーラム』15 日本ナサニエル・ホーソーン協会(2010) pp. 69-73.
- 古平ユキ『呪われたセイレム―魔女呪術の社会的起源』（ポール・ボイヤール、スティーヴン・ニッセンボーム著）『フォーラム』15 日本ナサニエル・ホーソーン協会(2010) pp. 37-42.
- 竹内勝徳『アメリカン・ルネサンスの現在形』（増永俊一著）『英文学研究』86 日本英文学会(2009) pp. 103-08.
- 中井紀明『反知性の帝国―アメリカ・文学・精神史』（巽孝之編著）『フォーラム』15 日本ナサニエル・ホーソーン協会(2010)pp. 51-56.
- 中村則子『帝国というアナキー―アメリカ文化の起源』（エイミー・カプラン著）『フォーラム』15 日本ナサニエル・ホーソーン協会(2010)pp. 63-68.
- 丹羽隆昭『ナサニエル・ホーソーンを読む―歴史のモザイクに潜む「詩」と「真実」』（阿野文朗著）『英文学研究』86 日本英文学会(2009) pp. 98-103.

VI. Essays & Miscellanies

- 入子文子「関西支部研究会」『NHSJ Newsletter』28 (2010) p. 18.
- 川村幸夫「資料室だより」『NHSJ Newsletter』28 (2010) p. 21.
- 九州支部「九州支部研究会」『NHSJ Newsletter』28 (2010) p. 19.
- 倉橋洋子「中部支部研究会」『NHSJ Newsletter』28 (2010) p. 18.
- 佐々木英哲「編集室だより」『NHSJ Newsletter』28 (2010) p. 20.
- 高尾直知「国際渉外室だより」『NHSJ Newsletter』28 (2010) p. 22.
- 高橋利明「東京支部研究会」『NHSJ Newsletter』28 (2010) p. 17.
- 丹羽隆昭「会長挨拶」『NHSJ Newsletter』28 (2010) p. 1.
- 増永俊一「事務局だより」『NHSJ Newsletter』28 (2010) pp. 22-23.
- Ano, Fumio. "Hawthorne and Natsume Soseki." 『NHSJ Newsletter』28 (2010) pp. 8-9.
- Narita, Masahiko. "Hawthorne's 'Roger Malvin's Burial' As Historical Negative Art." 『NHSJ Newsletter』28 (2010) p. 7.
- Niwa, Takaaki. "Retaliation Disguised as Expiation." 『NHSJ Newsletter』28 (2010) p. 6.
- Pfister, Joel. "*Hawthorne Studies* as American Studies." 『NHSJ Newsletter』28 (2010) pp. 3-6.
- Sasaki, Eitetsu. "Mock-Christ, Mater Tenebrarum, and Hawthorne: Melville's Domestic Metafiction, *Pierre; or, The Ambiguities.*" p. 10.
- Sayo, Akiko. "Nathaniel Hawthorne and Amos Bronson Alcott." 『NHSJ Newsletter』28 (2010) pp. 2-3.

Takahashi, Ai. “Men Who Need A Lot of Care—Representation of Care and Gender in Melville’s *Billy Budd* and Hawthorne’s *The House of the Seven Gables*—.” 『NHSJ Newsletter』 28 (2010) p. 2.

Takahashi, Toshiaki. “Ishmael’s and Zenobia’s ‘hand’: Utopian Representations in *Moby-Dick* and *The Blithedale Romance*.” 『NHSJ Newsletter』 28 (2010) p. 11.

Takemura, Kazuko. “Vicissitudes of Publication, Multiplicity of Studies.” [Book News]
『NHSJ Newsletter』 28 (2010) pp. 14-16.

Tsuji, Shoko. “Two Obsessions in ‘Roger Malvin’s Burial’ and the Influence of ‘The Indian Burying Ground’ By Philip Freneau.” 『NHSJ Newsletter』 28 (2010) pp. 6-7.

Uchibori, Naoko. “Hawthorne and Melville: The Pilgrimages in *The Marble Faun* and *Clarel*.”
『NHSJ Newsletter』 28 (2010) p. 13.

Ueshiba, Maki. “Three Different Approaches to Herman Melville at the End of the 20th Century.”
『NHSJ Newsletter』 28 (2010) p. 12.

追記：記載漏れの論文などがあるかと存じます。お気づきの点などございましたら、資料室担当者までお知らせください。また、論文などご執筆の際には、資料室に一部お送りいただくか、タイトルなどをお知らせいただけましたら幸いです。（川村）